

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	170502769		
法人名	株式会社じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム菜の花清田館2階		
所在地	札幌市清田区6条1丁目11番15号		
自己評価作成日	平成25年6月16日	評価結果市町村受理日	平成25年8月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①お一人お一人の尊厳を守り、日々の生活の中で安心感・充実感を持っていただくために、不適切なケアにならないよう個別ケアを大切にすることに努めている。②毎月季節に合わせた外出レクを実施し、入居者様の楽しみの一つとなっている。③周囲は自然が多く、隣には公園があり、落ち着いた環境の中で植物を鑑賞しながら散歩や野外活動を楽しまれている。④ホーム独自の花壇、畑、中庭があり外に出る楽しみが多くなっている。中庭には、東屋を設置し、スロープを増設し気軽に散歩できるように、また、バーベキューなど手軽に楽しめるようにしている。⑤ホーム主催の夏祭りを隣の公園で開催し、地域の方々がたくさん訪れ、また、町内会主催のジンギスカンパーティー、福引大会への参加、教会バザーへの訪問など地域との交流も多くなっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr&amp;JigyosyoCd=0170502769-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr&amp;JigyosyoCd=0170502769-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 7 月 19 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護日誌で1日の目標にケア理念を掲げ（7項目を順番に）、実践に向け取り組んでいる。理念は、法人理念・ケア理念を申し送り時に、唱和している。また、掲げた理念の振り返りを行い記録している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会主催のジンギスカンパーティー、正月の福引大会などの行事に入居者様と一緒に参加している。また、ホーム主催の夏祭りを隣の公園で開催し、地域の方々が、お手伝いを含めて参加していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域の方々へ認知症についての情報を発信している。避難訓練（夜間想定）においては町内会、ご近所の方々が意欲的に参加してくださっている。町内会主催の行事に参加し、交流を持っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現行のケアに関する実践、食事内容、日常生活や活動の取り組みの様子など、写真・パワーポイントを使用し報告している。地域の方々との意見交換を通し、サービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課に手続き方法などの相談をさせていただいている。運営推進会議には、地域包括支援センター・介護予防センターの職員の方々に参加いただき意見をいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルがユニット内にある。社内・外部研修で学び、職員全員で不適切ケアが起こらないようにカンファレンスでも取り上げ話し合っている。日中は玄関の施錠は行っていない。（3ロックの理解及びケア実践への取り組み）		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内・外部研修で学ぶ機会を作り、会議などで話し合いを行い、虐待の理解を含め職員同士で不適切なケアが起こらないように確認し、意識してケアにあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内・外部研修に参加して学ぶ機会を作っている。現在、ユニットには制度を利用している入居者様はいらっしゃらないが、今後ご家族様より相談を受けた時は、随時対応していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本社の職員も同席し説明を行っている。改定等の際は、文書としてご家族様に郵送、口頭での説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にアンケートボックスを設置している。面会に来られたご家族様には、個人記録の開示を行い、また、日常生活の様子、身体状況など報告させていただき、ご家族様の思いを含めご意見をいただいている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月管理者会議、リーダー会議、ユニット会議を実施している。その場で、職員の意見、提案を吸い上げ意見交換、検討を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当がある。サービス残業にならないように時間外手当、休日出勤手当などがあり、モチベーションの向上を図っている。また、管理者と話す機会を多く作り、職場環境のこと、業務のことなどやりがいを持って仕事にあたるようにしている。代表者が職員と個人面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人に合わせて、社内・外部研修、資格取得のための研修を受ける機会を確保している。管理者は、個人の介護知識・介護技術・認知症の理解などのスキル向上のための資料を提示し、年間の研修計画の中に組み、全体で研修に臨んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内の管理者研修会・地域研修会に参加し、情報の交換を行っている。地区での夏祭りに参加し、同業者との交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問し、ご本人の不安や要望、ご家族様の思いを聞き取り、安心して生活出来る様に対応させていただいている。また、ご家族様との信頼関係を大切にして、入居による疎外感などがない様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様より、具体的なアセスメントを通し、ご家族様の思い、不安や要望をお伺いする機会を設けさせていただいている。入居後においても、関係作りに努め、面会時などに情報の共有を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様より話をお伺いし、必要としている支援を見極め、基礎シートを作成しながら、アセスメントを行い、随時加味していく点を含め確認するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、食器拭き・洗濯物たたみ・掃除など、入居者様が出来る事は、職員と一緒にいき、共に生活しているという意識を持てるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られた時は、日常の生活の様子、行事・活動の様子、身体状況などを詳細にお伝えさせていただいている。その際、ご意見・ご要望をお伺いしている。誕生会・夏祭り・敬老会・クリスマス会などの行事にご参加いただき入居者様と共に楽しんでいただけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力で、お盆や正月の外出、外泊へ出かけられ、また、面会時に一緒に外出されるなど、馴染みの人や場所との関係を保てるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で、入居者様同士の関係をしっかりと把握し、孤立しないように、不和にならないようにスタッフが関わりを持っている。手伝いを共同で行ったり、集団でのレクや活動を通し、入居者様同士が関わり合える機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、必要な書類、情報の提供を行っている。その際、ご本人様やご家族様の状況を聞かせていただき、利用終了後も相談できる場があるという安心感を持っていただけるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様お一人お一人と日々の暮らしの関わりの中で、ご本人の希望・意向の把握を行っている。個別ケアを大切にその思いから「わたしノート」を作成し、情報を共有出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報シートを活用し、ご本人・ご家族様から情報を得ている。日常生活の中で新たに得た情報に関しては、申し送りなどでスタッフ間の共通理解を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録、生活チェック表、訪問診療記録・などを通し、現状を申し送り、個々の生活状況・身体状況の把握と共通理解に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者は、毎月のモニタリングでその時の課題を分析し、担当者会議で課題・ケアの有り方を話し合っている。ご本人・ご家族様にも意向を伺い、介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入し、ケアの実践や気づきを記入している。ケア留意点の一覧表を作成している。毎日の申し送りや毎月のユニット会議でスタッフ間の情報交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院されたご家族様のお見舞いに職員と一緒に出かけたり、他館の夏祭りを見学に行ったり、畑の作業を一緒に行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会で毎年行われている、ジンギスカンパーティーや福引大会に参加し、地域の方々との交流を楽しまれている。避難訓練には、町内会・ご近所の方々に参加させている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様と話し合いを持ち要望などを受け止めながら、かかりつけ医の確認を行っている。月2回の訪問診療以外にも、緊急時には、往診や受診を行い対応させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回本社の訪問看護師による健康管理を行い、気づいた事を相談している。電話でも相談を行い、看護師との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、電話や定期的に面会に行くなど病院関係者と情報交換を行っている。ホームの状況やご本人の回復の状況などの情報交換を行い、退院に向け対応させていただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合の指針の同意書を頂いている。入居者様が重度化した際には、ご家族様・担当医・事業所関係者・管理者との話し合いを持ち、今後の生活、意向について再確認させていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内・社外の緊急時関連の研修を通し、緊急時の対応において焦ることなくきちんと対応出来るように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回避難訓練を行っている。階段の下ろし方、消火器の使い方、発電機・ジェットヒーターの使い方などを訓練している。町内会の方々も参加して下さっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に敬意を払い、人格を尊重した声かけが出来るように意識している。特に、排泄時、入浴時などの声かけには配慮し、きちんとした声かけのもと適切なケアが出来るように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いをきちんと伝える事が出来るように随時個別に思いを聞いたり、意思表示の困難な方には、表情の変化を見ながら思いを推察しながら対応させていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの業務を優先することのないよう共通理解を図りながら、入居者様の思いを優先し対応出来るように意識し、お一人お一人のペースに合わせて生活出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日お化粧されている方もいらっしゃる。マニキュアの声かけ、衣類の選択などお一人お一人の気持ちを大切に支援させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みに合わせて、代替メニューを提供している。食事の下ごしらえや盛り付け、食器拭きをスタッフと一緒に会話を楽しみながら行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェック表を確認しながら過不足のないように注意している。栄養士が献立を考え、栄養バランスの取れた食事を提供させていただいている。ペースト食、一口サイズの対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のうがい、食後の歯磨き、義歯洗浄の声がけ、支援をさせていただいている。スポンジ、ガーゼなどを使用し、状況に合わせてケアさせていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを確認、把握しながら、お一人お一人に合ったトイレ誘導、排泄介助を心がけて対応させていただいている。出来るだけ、失禁を減らし、トイレで排泄出来るように努めている。下着着用を基本とさせていただいている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んでいただいている。また、個別的にヨーグルトを用意させていただいている方もいる。水分不足にならないように、また、散歩・運動などで体を動かすことで排泄への促しに努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴が出来るように、入居者様の希望、体調を考慮しながら、入浴の声がけをさせていただいている。拒否ある方には、時間をずらすなどタイミングを見ながら声をかけさせていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっていない。寝たいときにお休み下さいというのが基本であるが、その時その時の体調などを考慮しながら適切な声がけが出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は、個人ファイルにあり、スタッフがいつでも確認出来るようにしている。新しく処方された薬類については、その都度、往診医・薬局員に説明を受け、スタッフにも申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や歌、園芸など趣味に合わせた活動や、昔から得意な家事を生かした活動など、楽しんで作業出来るものを考案し、提供させていただいている。その際、簡単な調理、盛り付け、片付けなど役割分担し取り組んでいる。外に出る事でいい気分転換となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近所の公園、畑など希望に合わせた散歩コースを設定し対応させていただいている。外食の希望を聞き取り、バイキング、喫茶店などに出かけ、楽しんでいただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の同意のもと、小額のお金を持っている方もいらっしゃる。ご自分で是非買いたいものがあるときなど管理者へ相談され、対応させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じ、その都度電話が出来るように支援させていただいている。家族に、手紙や年賀状を書かれています方もいらっしゃる。管理者が宛名書きなどお手伝いさせていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、カーテン・LEDライトで光の調節を行わせていただいている。テレビや音響のボリュームも入居者様が不快にならないようにその都度調節させていただいている。花壇の花、観葉植物を飾り、リビング内に季節感を取り入れている。1日に3回、清潔を保つために消毒を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルやソファ、和室があり、好きな場所、ご本人が落ち着く場所でくつろげるように配慮させていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの鏡台で化粧をされたり、昔から愛用している家具を持ってこられ愛着を感じ使用されている方も多。家族様の写真、ご自分の写真などを飾り、それを見ながらいろいろと話をしてくださっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング内には、手すりをつけ安心して歩けるようにしている。歩行時の導線を工夫している。トイレ、浴室の場所の表示、居室には表札、活動のご自身の写真などを掲示して、ご自分の部屋が分かり易いように配慮させていただいている。		